

中央材料室この一年

中央材料室看護科長 鈴木 多恵子

平成14年の中央材料室の目標は、昨年の目標を踏まえて、下記のように掲げた。

- 1) 安全で安心な滅菌物を提供する
- 2) いつも笑顔で対応する
- 3) 挨拶は必ずする
- 4) 報告・連絡・相談をしっかりとる

中央材料室は、直接患者さまとは接する事は無いが、受け払い窓口に来られる職員の方々が、気持ち良く安全な物品を搬送できるように、日々心がけている。そして職場内の、良いコミュニケーションが保たれるよう、些細なことでも声掛け合いながら業務にあたっている。しかし、朝の集中的な忙しさの中で、つい挨拶を忘れてたり、笑顔の対応が、出来ていないかも知れないと反省をしている。

人事については、7月より看護師1名に替わり、准看護師1名が、そして11月15日から産休に入る准看護師に替わって、准看護師1名が、メンバーの一員になった。メンバーが替わることにより、新鮮な眼で中央材料室の中が見え、色々な意見や今まで所属していた部署などの情報を聞き、改善や見直しをしている。

動向については平成13年5月から特定科学物質第二種物質として、エチレンオキシドが追加指定されたため、今年9月に作業環境測定が実施された。環境測定の結果は、管理濃度1ppm以下の数値で第一管理区分の適切であった。ガス滅菌機を取り扱う者が、安全に作業できる環境であると言えるため、安心である。又、平成15年4月末までに、特定化学物質等作業主任者を選任しなければならず、11月に主任者の資格を得た。今後ガス滅菌機の手扱いは、この資格取得の時に学んだことを活かして、業務にあたらなければなら

ない事と、職員教育を行なっていく必要がある。

会議・勉強会については、毎月定例に会議を開催しているが、勉強会は定例とは行かず、会議の時にトピックス的に資料を、コピーして読み聞かせをしたり、説明を加えたりする程度になっている。院内感染についてや、滅菌物の保管方法の見直しなどの新しい情報が入ってきているため、素早く情報をキャッチして勉強会に取り入れていかなければならない。

滅菌物の単包化が進むにつれて、滅菌機の稼働回数も年々増えてきている。オートクレーブとガス滅菌機の稼働回数は、表1に示したとおりである。

オートクレーブの稼働回数を比較しても昨年より十数回多くなっており、特に鑷子や剪刀類の単包化を充実したり、ガーゼカスト内のガーゼの枚数を減らし、その分1枚・2枚・5枚などのパックを増やしている。このように感染や清潔面を重視していることが、回数増加に繋がっていると考えられる。又、院内感染を考えると、今後はI処置に対してI器械であり、シングルユース製品を使用していかなければならないのではないだろうか。ガス滅菌については、前に述べたように特定化学物質の指定もあり、残留ガスに対する人体に及ぼす影響も大きい為、使用しない施設が増えてきている。当院の手術室に、過酸化水素低温プラズマ滅菌機(ステラッド)が入っている為、ガス滅菌機の稼働は少しずつ、減少傾向になっていくと思われる。

次年度にむけて、外来に使用している器械カストの廃止・滅菌有効期間の見直し・布製の穴開きや覆布のディスポ化への見直しなどを課題に上げ、より安全安心な滅菌物を、確実に各部署へ提供していきたいと考えている。

表1 【滅菌機稼働回数状況】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
オートクレーブⅠ	100 (99)	97 (101)	108 (104)	102 (101)	113 (115)	97 (107)	111 (107)	104 (112)	105 (95)	104 (108)	104 (112)	114 (105)	1256 (1238)
オートクレーブⅡ	102 (98)	94 (98)	100 (112)	98 (98)	111 (101)	101 (109)	113 (109)	103 (106)	98 (88)	109 (106)	100 (96)	109 (96)	1238 (1216)
ガス滅菌機	19 (21)	19 (20)	20 (21)	22 (20)	22 (23)	21 (21)	23 (22)	22 (23)	19 (19)	22 (22)	20 (21)	20 (20)	249 (253)

()の中の数字は平成13年のデータです